

# 観光業

## 業況、売上、採算

今期（2020.4～6）の業況判断DIは▲100.0で、前年同期(2019.4～6)と比べ93.7ポイント低下し、大幅に悪化しました。

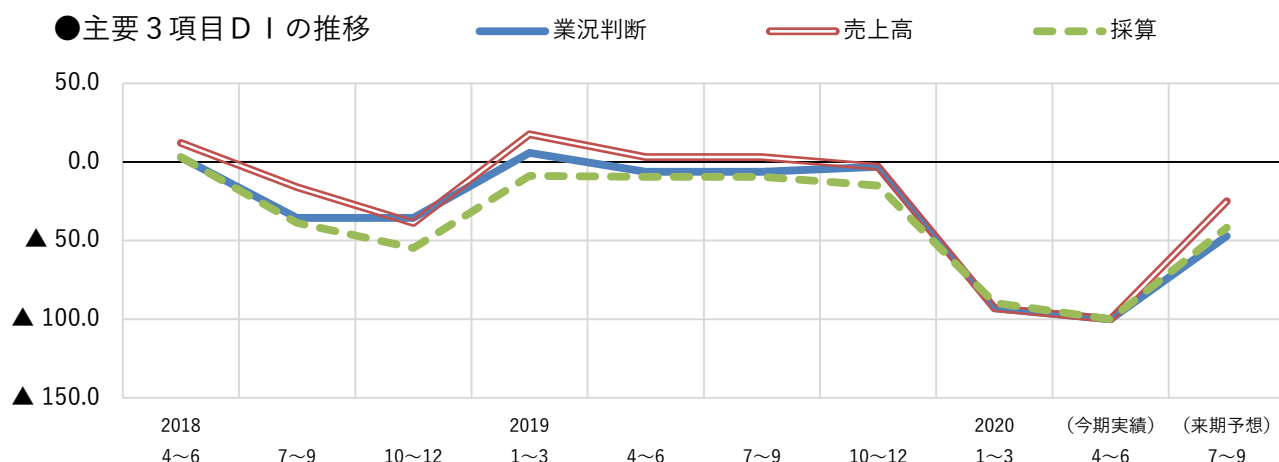
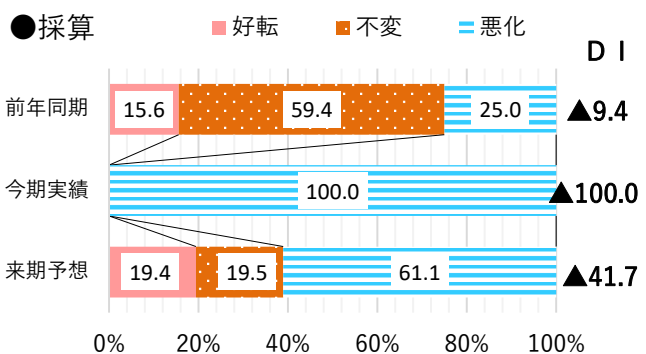
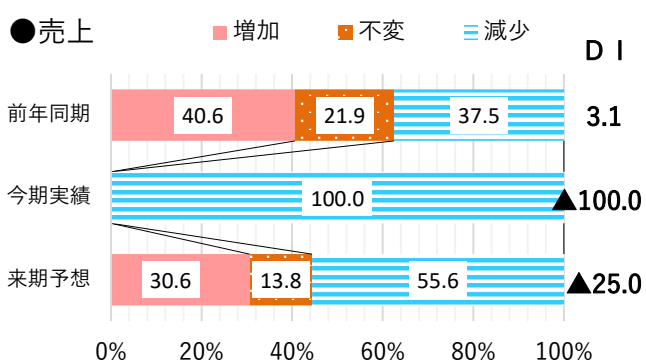
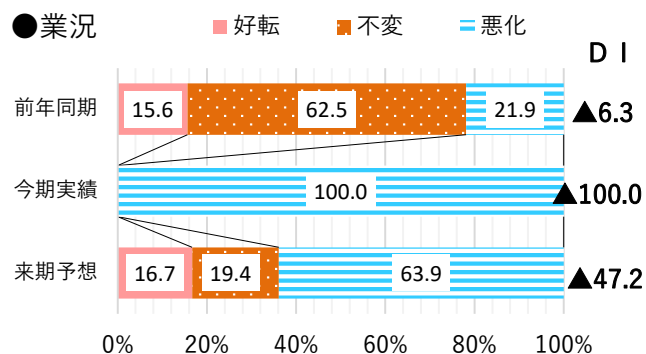
来期（2020.7～9）は、業況の悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。

今期の売上DIは▲100.0で、前年同期と比べ103.1ポイント低下し、大幅なマイナスに転じました。

来期は、売上の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。

今期の採算DIは▲100.0で、前年同期と比べ90.6ポイント低下し、大幅に悪化しました。

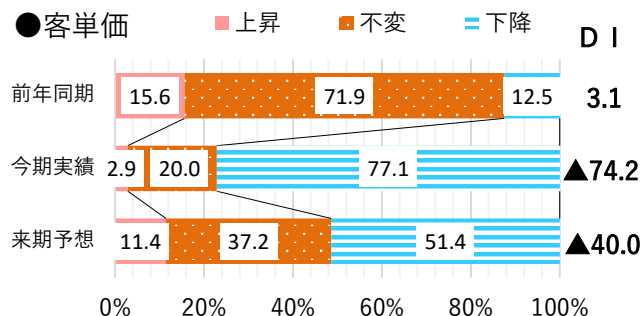
来期は、採算の悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。



客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

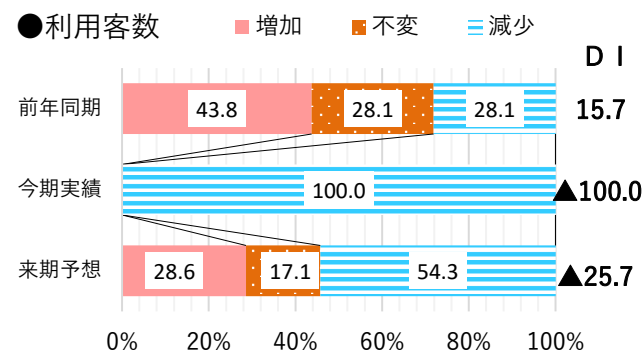
今期の客単価DIは▲74.2で、前年同期と比べ77.3ポイント低下し、大幅なマイナスに転じました。

来期は、客単価の下降傾向が大幅に弱まると予想しています。



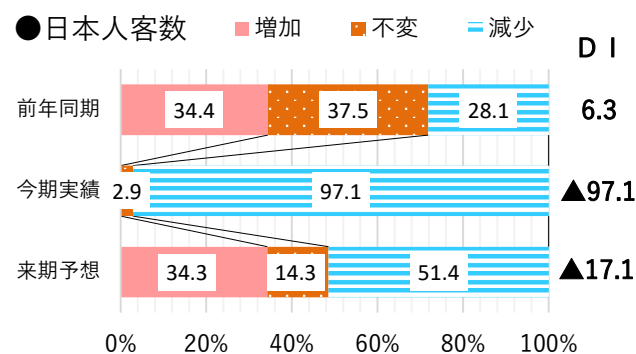
今期の利用客数DIは▲100.0で、前年同期と比べ115.7ポイント低下し、大幅なマイナスに転じました。

来期は、利用客数の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。



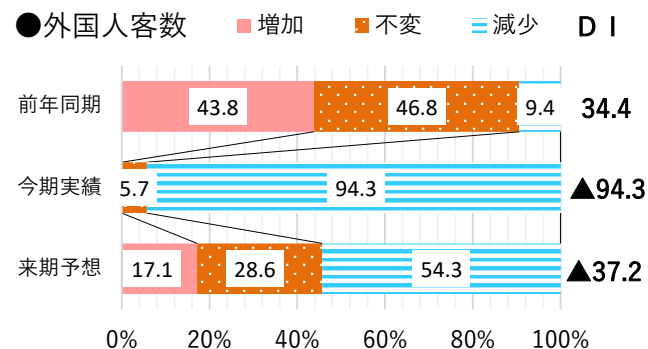
今期の日本人客数DIは▲97.1で、前年同期と比べ103.4ポイント低下し、大幅なマイナスに転じました。

来期は、日本人客数の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。



今期の外国人客数DIは▲94.3で、前年同期と比べ128.7ポイント低下し、大幅なマイナスに転じました。

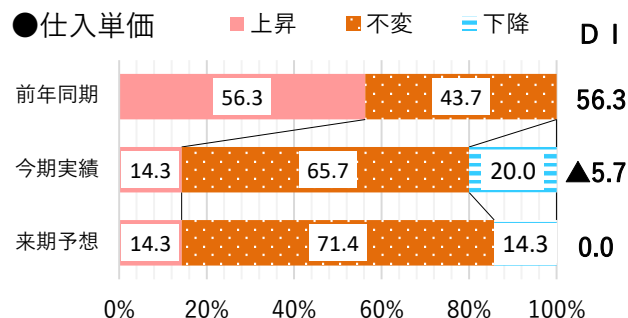
来期は、外国人客数の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。



## 仕入単価

今期の仕入単価DIは▲5.7で、前年同期と比べ62.0ポイント低下し、マイナスに転じました。

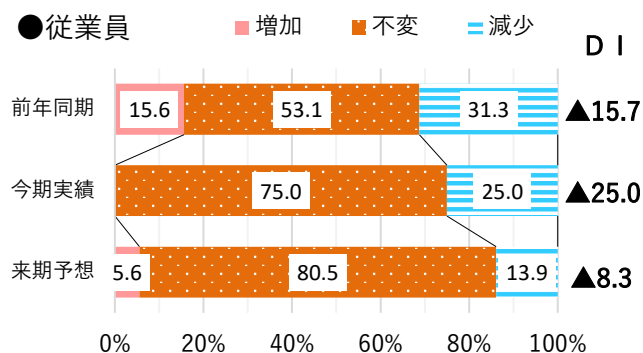
来期は、仕入単価の下降傾向が落ち着くと予想しています。



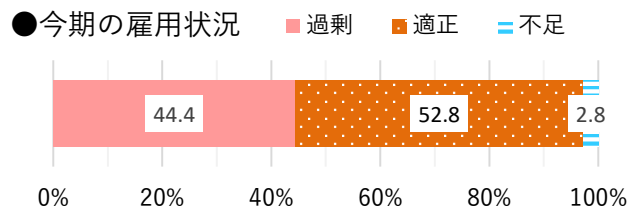
## 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは▲25.0で、前年同期と比べ9.3ポイント低下しました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は44.4%、適正であると回答した企業の割合は52.8%、不足していると回答した企業の割合は2.8%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、観光業全体の38.8%を占めています。

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、過剰である」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	0
不変だった	過剰	13
	適正	14
	不足	0
減少した	過剰	3
	適正	5
	不足	1

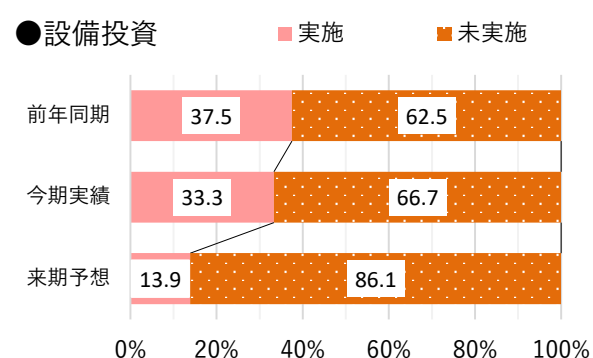
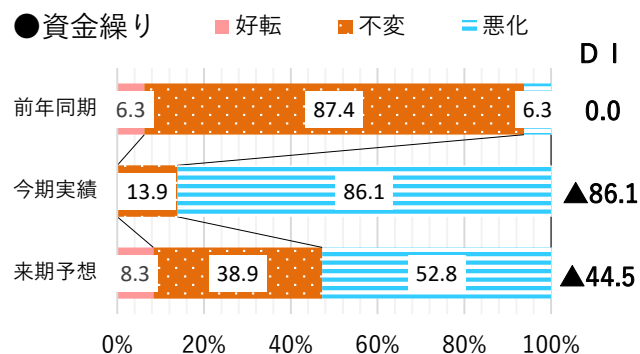
## 資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは▲86.1で、前年同期と比べ86.1ポイント低下し、大幅に悪化しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。

設備投資を実施した企業の割合は33.3%で、前年同期と比べて4.2%減少しました。投資内容は、1位が「建物」、2位が「車両運搬具」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は13.9%で、減少すると予想しています。

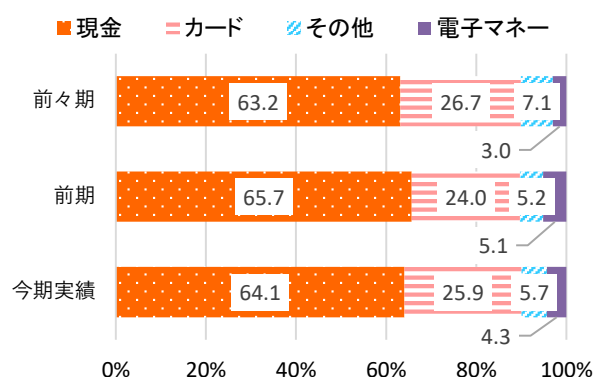


## 今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位が現金で64.1%、2位がカードで25.9%、3位がその他で5.7%、4位が電子マネーで4.3%となりました。

その他として挙げられた具体的な決済方法は、web決済、クーポン券、ポイント決済、掛売り、旅行代理店からの銀行振り込みです。

●今期利用客の決済方法(%)

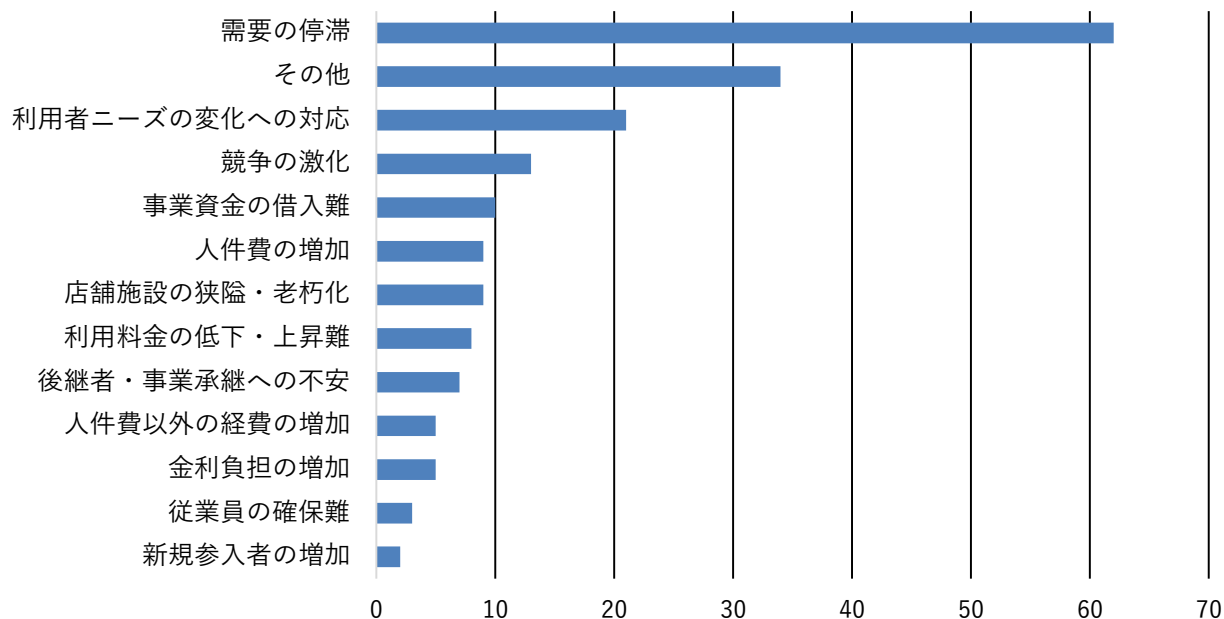


## 客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は18.3%でした。

## 経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「需要の停滞」、2位が「その他」、3位が「利用者のニーズの変化への対応」の順です。



## 企業の声

[今期の業況について]

- 道外からの観光客だけではなく、道内の他自治体から来る観光客を嫌う雰囲気が醸成されていると思う。  
このままでは宿泊業は営業できない。(ホテル)
- 新型コロナウイルスの影響で、業況が全体的に悪化した。(ホテル)
- 予約のキャンセルが増加し、業況が悪化した。(ホテル)
- 新型コロナウイルスにより業況が悪化した。(ホテル)
- 新型コロナウイルスの影響が甚大である。(ホテル)
- 宿泊、飲食ともに売上が大きく減少した。(ホテル)
- 国内客、インバウンドともに減少した。(ホテル)
- 5月は休業、6月は利用人数を制限したため、売上が減少した。感染対策費用も負担となった。  
(コテージ・ペンション)
- 4～6月は休業のため、売上が無い。(コテージ・ペンション)
- 新型コロナウイルスの影響で、開店しても閉店しても非常に厳しい状況である。緊急事態宣言が解除されても、平日は通りが閑散としており、今後の見通しが立たない状況である。(飲食店)
- 新型コロナウイルスの今後の動向が分からないため、経営計画を立てられない。(飲食店)
- 新型コロナウイルスと休業要請によって大打撃を受けた。(飲食店)
- 店を維持するだけでやっとの状況である。(飲食店)
- 団体客と外国人観光客が減少した。(飲食店)
- 客数が減少した。(飲食店)
- 新型コロナウイルスの影響で、4月20日～5月31日まで臨時休業していたため、売上等が減少した。  
(社会教育)
- 新型コロナウイルスによる売上減少が3月から続いており、好転の目途が全く立たない。費用の削減や新型コロナウイルス対策関連の融資、コロナ禍に適合した新製品の投入など、現時点で考えつく全ての対策を実施しているが、悲惨な状況は変わらない。(土産品)

- 新型コロナウイルスの影響により、国内外の観光客が激減した。営業時間を2時間短縮し、4月下旬から5月下旬まで店舗を閉鎖したため、売上はほぼ無い状況である。(土産品)
- 対前年度比客数は、観光客がほぼ0%、地元客が65%だった。卸、外販の売上は33%程度だった。(土産品)
- 新型コロナウイルスの影響で、観光客が激減した。売上はほぼゼロに近い。(土産品)
- 新型コロナウイルスのため、観光客の来店はほぼ無かった。(土産品)
- 新型コロナウイルスによる売上減少で、業況が悪化した。(土産品)
- 新型コロナウイルスの影響で、売上が大幅に減少した。(土産品)
- 新型コロナウイルスにより、業況が悪化した。(土産品)
- 新型コロナウイルスにより、利用者が激減した。営業時間の変更で対応している。(レンタカー)
- 観光客や出張、ビジネス関係の利用が減少し、業況が悪化した。(レンタカー)
- 新型コロナウイルスの影響で、観光船、観光駐車場ともに利用客が減少した。(船舶貸渡業)
- 新型コロナウイルス対策として、4月中旬から5月末まで休業したため、その間の売上はゼロであった。6月から営業を再開したが、客数は前年同期比で98%減少した。(水運業)
- 新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、休業していた。緊急事態宣言が解除されてからは、週末に限定して営業しており、利用客は休業前に比べて減少している。(娯楽業)

#### [来期の業況について]

- 旅行者の回復には時間がかかると思われる。(ホテル)
- 新型コロナウイルス終息後の動きを懸念している。(ホテル)
- 観光客は当分回復しないだろう。(ホテル)
- 業況の予測が困難な状況にある。(ホテル)
- 学校の夏休み短縮と団体客の減少により、予約の減少と減収が見込まれる。(コテージ・ペンション)
- インバウンドの来店には期待できないので、日本人観光客や地元客を呼び込む計画を立て、状況の改善を目指す。(飲食店)
- 先を見ながら経営しても、新型コロナウイルス流行のような予期せぬ出来事があると立て直せない。(飲食店)
- イートインの利用は減少するが、テイクアウトやデリバリーの利用が伸長するだろう。(飲食店)
- 旅行会社からの送客が止まっており、回復は見込めない。(飲食店)
- 今後の見通しが全く立たない状況である。(飲食店)
- コロナ禍の中での厳しい事業展開が続く。6月19日に都道府県間の移動が緩和されたため、首都圏や札幌からの来客の増加に期待している。外国人観光客は2~3年回復しないだろう。(土産品)
- 5月下旬から営業を再開したが、来客は少ない。7~9月では道外、海外からの観光客数の大きな回復は期待できないので、厳しい状況が続くと推測している。(土産品)
- 今後の新型コロナウイルスの動向に左右されると思うが、景気は悪化すると思われる。(土産品)
- 緊急事態宣言終了後も客数は回復していないため、今後の目途が立たない。(土産品)
- 今期よりは国内観光が上向くだろう。(土産品)
- 業況の好転を予想する。(土産品)
- 見通しが立たない。(土産品)
- 業況の悪化はしばらく続くと思われるので、不安を感じている。(レンタカー)
- 外出自粛の緩和による、利用客の増加を期待する。(レンタカー)
- 新型コロナウイルスが終息し、事業活動が正常化することを切に願う。(船舶貸渡業)
- 客数は今期と比べ増加すると思うが、前年同期と同程度に回復することはないだろう。(水運業)
- 新型コロナウイルスの影響で、外出を控える傾向が続くと思われる。(娯楽業)